



人がつなぐ架け橋

～デンマーク王国と登別市のきずな～



4月26日(木)・27日(金)にデンマーク王国のフレディ・スヴェイネ特命全権大使が駐日デンマーク王国大使として初めて登別市を訪れました。

これは、これまで登別市とデンマーク王国（ファボー・ミッドフュン市）が行ってきた草の根の交流とともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、デンマーク王国を相手国としたホストタウンの取り組みの一つとして実現したものです。

今号では、デンマーク王国と登別市とのつながり、そしてホストタウンの取り組みについて紹介します。



登別市から約8,700*キロ離れた国

『デンマーク王国』

ヨーロッパ大陸に位置するデンマーク王国は、海に囲まれた国です。国土のほとんどが平地で、農業などが盛んに営まれており、日本はデンマーク王国から豚肉を多く輸入しています。世界一幸せな国の一つとして知られ、国民は高額税金を負担する代わりに福祉サービスの多くを無料で受けることができる政策をとっています。また、デンマーク王国では、バドミントンやボート、競泳、自転車競技が盛んです。



身近な国『デンマーク王国』

1990年、デンマーク王国のフュン島にある『イーエスコーク城』をモデルとした水族館『登別マリンパークニクス』の開園式にイーエスコーク城主夫妻をはじめ、ミッドフュンズ高校の合唱団総勢52人が訪れ、コンサートの開催や市民宅へのホームステイなど、市民との交流をきっかけに、本格的にスタートしたデンマーク王国と登別市との交流。

1992年からは、市が毎年、中学生派遣団をデンマーク王国に派遣し、ホストファミリーのもとでホームステイをしながら、現地の中学生や地元の方と交流するなど、これまでに市内の中学生など、計166人が貴重な体験をしてきました。

1995年には、デンマーク王国で、『リング・ウィスリング登別友好協会（現ファボー・ミッドフュン登別友好協